

よくある質問



希望する講座の具体的なイメージはまだありません。申し込みをしてから、相談することは可能ですか。
はい、可能です。申し込みをいただいた後に事務局から詳細をお聞きするための連絡をします。講座のねらいと提供できる内容をお話し、希望される内容に沿った講座テーマと講師を設定するお手伝いをします。



オンライン講座で開発途上国の人と日本の生徒の交流は可能ですか。
出前講座の一部として取り入れることは可能です。ただし、日本と現地の子どもたち同士の交流については、講師側の配属先状況によるため、調整が難しい場合があります。



講座の内容を決めるのは全て講師の方にお任せできますか。
学校の希望をお聞かせください。講師は開発途上国の経験はありますが、講座をするプロではないため、事前に講座の目的などの打ち合わせをして内容を決定します。



講師の国や地域の指定は可能ですか。
はい、可能です。希望に沿った講師の選定を行いますが、時期や内容によってはすべての希望に対応できない場合があります。



オンライン講座で話をして欲しい講師が決まっています。この場合も申し込みは必要ですか。
はい、オンライン講座の所定の申し込みをお願いします。活動中のJICA海外協力隊が講師をする場合は、原則JICAの承諾が必要です。申し込みいただく際に、希望される講師の国と氏名をお知らせください。



出前講座の録画は可能ですか。
講師の肖像権があるため原則、録画はお断りしています。ただし、事前に講師と合意が取れる場合は対応も可能です。



オンライン講座の当日の技術的なサポートを受けることはできますか。
オンライン講座はZoomで行います。当日はZoomに事務局も参加し、接続、音声、画面共有などに問題が発生したときは速やかに対処します。



オンラインの接続やマイクの設定など支障がないか事前に試したいため、接続テストは可能ですか。
はい、可能です。接続テストの希望をいただければ、講座の数日前に設定いたします。接続テストは約20～30分の時間を想定してください。

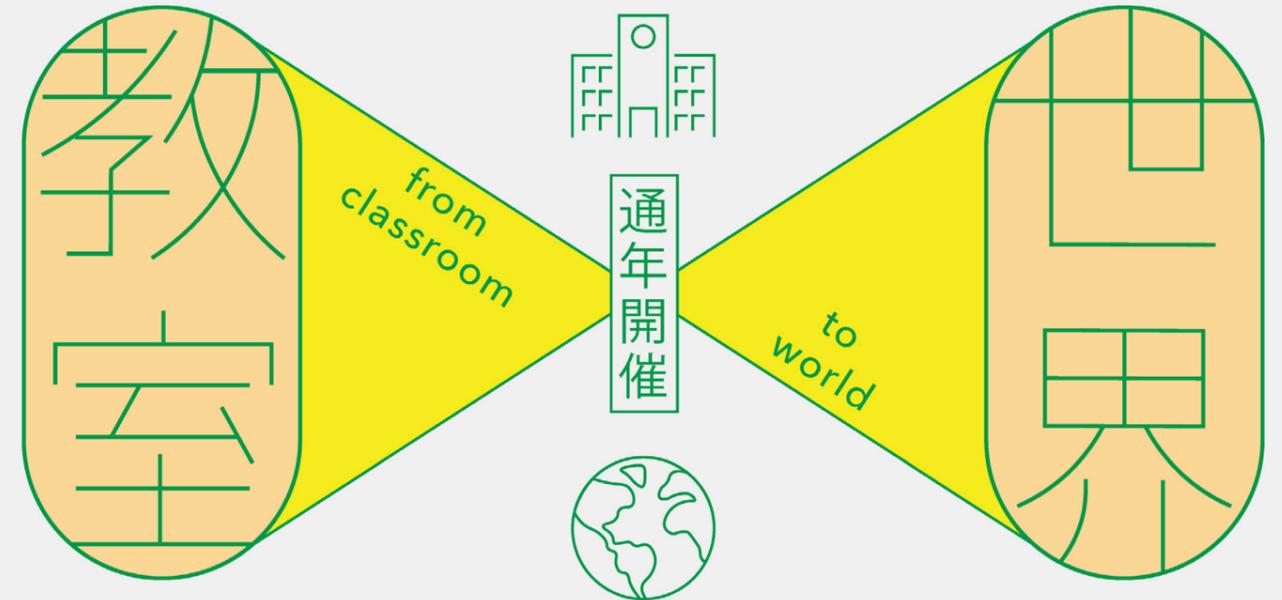
注意事項

- 申し込みをお受けできないケース
- ・個人宅で実施するもの
 - ・申込者の事業収益、営業、拡販、宣伝等を目的としたもの
 - ・申込者の個人的な活動に基づくもの

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

ウェブサイト

JICA国際協力出前講座



教室と世界をつなぐ 国際協力出前講座



- 対象者
- 小学校・中学校・高校・特別支援学校・大学・専門学校等の教育機関
 - 一般の方
 - 市民団体等

オンライン 出前講座

講師 開発途上国で活動中のJICA海外協力隊
JICA職員、企画調査員、国際協力専門員など

費用 無料
*上記以外の講師を希望される場合、費用が発生することがあります。

申し込み→実施の流れ

1	JICAウェブサイト国際協力出前講座ページの申し込みフォームより申し込み <small>*申し込み期限:実施希望日の40日前まで</small>	
2	オンライン出前講座事務局より詳細確認の連絡 <small>*学校側の希望内容とオンライン実施の環境確認のためのご連絡です。</small>	
3	講師の選定	
4	学校側と講師による詳細調整	
5	オンライン出前講座実施	
6	講座実施後、アンケートの回答 <small>*実施後、3営業日以内に回答のご協力をお願いいたします。</small>	

講師 JICA海外協力隊経験者、国際協力関係者
開発途上国からの研修員

費用 謝金および交通費
JICA規定に基づく目安は1人当たり1時間4,600円
*学校や自治体の講師謝金単価基準がある場合は、それに準じる金額で構いません。

申し込み→実施の流れ

ウェブサイト内の 各JICA国内拠点ページでご確認ください	
----------------------------------	---

JICA国内拠点
JICA北海道(札幌)、JICA北海道(帯広)、JICA東北、JICA二本松、
JICA筑波、JICA東京、JICA横浜、JICA駒ヶ根、JICA北陸、JICA中部、
JICA関西、JICA中国、JICA四国、JICA九州、JICA沖縄

対面型 出前講座

出前講座の目的

- 1 開発途上国の課題や現状、日本とのつながりについて
- 2 国際協力の意義や必要性について理解すること
- 3 参加者が自分たちにできることを考え、自発的に行動するきっかけになること

テーマ設定と活用方法

学校の要望・ねらいに沿って講師と打ち合わせをして講座の内容を組み立てることができます。特にオンライン講座では国際協力の専門知識を持つ講師が担当することで、より専門的な講座内容にすることも可能です。

学校での活用は総合的な学習や探求の時間、社会や道徳、英語、家庭科の各教科、文化祭等の行事や修学旅行の事前学習などのテーマ学習、キャリア学習のほか、教員研修や市民講座でも活用いただけます。

講座の主なテーマ

- JICA海外協力隊の体験談**
国際協力からみる世界の課題や日本とのつながりを海外協力隊の活動から知り、自分たちにできること
- 異文化理解(外国の生活・文化)**
開発途上国の文化や生活を知り、異文化に対する
- JICA事業とODA**
開発途上国が抱えるさまざまな課題解決に向けJICAが実施する取り組みを知り、自分たちにできる
- キャリア教育**
国際協力の仕事や講師の生き方を知り、自分の将
- 多文化共生**
在留外国人や日系移民、外国につながる児童生徒の現状を知り、共生するために相手の立場を尊重
- 人権と国際協力**
貧困
貧困の問題や原因、貧困状態から起こる課題を知り国際協力の必要性について考える。
- 紛争と難民**
難民を生み出す原因である地域紛争や政治的対立などを理解し解決策を考え、人権が尊重される社会と国際協力の必要性について考える。
- 児童労働**
児童労働が起こる原因や子どもへの影響を知ること、児童労働がなぜなくなるかを理解し、国際協力の必要性について考える。
- SDGsと国際協力**
JICAの国際協力を切り口にSDGsの取り組みを知り、SDGsを通じて自分たちにできることを考える。

CASE 1

現地の中継から異文化理解



東京都 小学6年生 - 社会科の授業で実施
対象国 ベトナム

学校のニーズ

協力隊が取り組んでいる支援や技術協力、現地で活動して感じた異文化理解や共生に向けて大切なことなど、児童と対話しながら考えたい。

講座内容

- ・アクションカメラを使って近所の市場から自宅までの道の中継
- ・民族や食べ物、伝統衣装の紹介
- ・文化の違いから学んだこと

参加者の声：担当教員より

認め合う大切さや上下をつけないこと、互いの文化や考えを大切にすること、自分たちに引け目を感じないことなど、違いもあるが同じところもたくさんあることに驚いていた様子です。発見する面白さや、もっと知りたいと好奇心を持つこと、自分の強みを活かす大切さなどに気づけてい

CASE 2

SDGsの現在の状況を聞きたい!



兵庫県 高校2年生 - 英語科の授業で実施
対象国 ボツワナ

学校のニーズ

SDGsの項目を英語の資料で理解を深めているがインターネットからの知識のみのため、実際の世界の状況を知りたい。講師はアフリカ地域の協力隊を希望。

講座内容

- ・隊員の現地の同僚と英語であいさつ
- ・生活してみて感じるボツワナの現状と課題
- ・JICAの概要と協力隊の活動、SDGsとの関連

参加者の声：担当教員より

事前に授業の目的を講師と細かく共有できたことで、私がイメージしていたとおりの学びの時間になりました。世界の課題について現地の具体的な話を聞くことで、SDGsと国際協力を結びついて理解できました。大型のモニターで受講するのではなく、個別のパソコンで受講

CASE 3

フィールドワークの事前学習!



東京都 経済学部の大学生 - 大学のゼミで実施
対象国 カンボジア

学校のニーズ

カンボジアへフィールドワークで渡航する予定があるため、カンボジアの現状から異文化理解を深める事前学習にしたい。また、キャリア学習として海外での生活や協力隊へ参加した理由など、就職活動をする際に学生の視野

講座内容

- ・JICA海外協力隊の体験談、参加した理由
- ・カンボジア概要と生活・文化について
- ・国際協力の意義・必要性についてディスカッション
- ・活動実践に必要な考慮や

参加者の声：担当教員より

参加した大学3年生は卒業後の進路を考える時期。協力隊の経験談やさまざまな国際協力のかかわり方に

オンライン講座準備物

オンライン環境

投影機器

プロジェクター・スクリーンまたはモニター・タブレットなど

音響

広い会場で実施する場合はスピーカー

※学校側でご準備いただく内容です

出前講座の講師

JICA 海外協力隊

開発途上国で様々な分野で活動事業や派遣実績



開発途上国からの研修員

JICA は国づくりの担い手となる開発途上国の人材を研修員として日本に招き、日本の技術や知識を伝える事業を実施。来日中の研修員が講師となり学校へ

CASE 1

キャリア教育の一環として!

北海道 中学2年生 - 総合的な学習の時間で実施
対象国 ベトナム

学校のニーズ

キャリア教育の一環としての講座。国際協力に携わる講師の話聞いて、生徒に自分らしい生き方のヒントにしてほしい。また、講師の活動や体験から、生徒に国際協力や世界の国々をより身近に感じてほしい。国際協力として今すぐ何か関わることができなくても、いつか関わることが

講座内容

- ・JICA海外協力隊の体験談、参加したきっかけ
- ・外国の生活・文化について



参加者の声：生徒より

国際協力は難しいイメージがありましたが、実際に活動されている方のお話を聞いて、開発途上国や国際協力が身近に感じられました。国際協力を仕事にしてもなくても国際協力の関わり方はたくさんあるとわかったので、自分

CASE 2

開発途上国から学びに

東京都 小学6年生 - 特別活動の時間に実施
講師 JICAの課題別研修「感染予防と管理」コース

*研修員はブラジル、コンゴ民主共和国、エジプト、エチオピア、ガボン、ガイアナ、ラオス、マーシャル諸島、タイ、ウガンダ、ベトナム、ザンビアの医療従事者

学校のニーズ

講座内容

- ・外国の文化や生活を知る「私の国・私の夢」
- ・研修員の国の場所、料理、世界遺産などの紹介



参加者の声：担当教員より

様々な国の講師が参加したことで、児童のみなさんからたくさんの質問ができました。世界の医療事情を知ること、医療関係の仕事について興味をもったり、日本では当たり前前の衛生教育が開発途上国では不足している事情を知つ